

# 教育委員会第10回定例会議 会議録

- 1 日時 平成23年10月26日(水)  
開会 13時30分  
閉会 14時00分
- 2 会場 金沢市本庁舎 4階401会議室
- 3 出席委員(7名)

教育委員長	佐藤秀紀
教育委員	岡能久
〃	早川芳子
〃	前川信政
〃	柳下道子
〃	米井裕一
〃(教育長)	浅香久美子

事務局	教育次長(兼)学校職員課長	上林雅彦
	学校教育部長	平嶋正実
	(兼)市立工業高等学校教育改革推進室長	
	教育総務課担当課長(兼)課長補佐	高村政博
	教育委員会担当部長(兼)学校指導課長	野村豊
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	山田裕
	教育委員会担当部長(兼)市立工業高等学校事務局長	奥村敏郎
	生涯学習部長(兼)生涯学習課長	縄寛敏
	教育委員会担当部長	森田勝
	(兼)図書館総務課長	
	(兼)玉川図書館長	
	泉野図書館副館長	廣田康太郎
	玉川こども図書館副館長	村田健
	金沢海みらい図書館長	石蔵茂幸
	教育プラザ富樫総括施設長	越田理恵
	(兼)地域教育センター所長	
	研修相談センター所長	山下美奈子
	市立緑小学校長(海外派遣研修団長)	直江義弘

- 4 案件
- 報告第17号 平成24年金沢市立工業高等学校全日制の課程第1学年  
入学者募集要項について (市立工業高等学校事務局)
- 報告第18号 金沢市立工業高等学校と韓国全州工業高等学校との  
国際交流事業について (市立工業高等学校事務局)
- 報告第19号 第6回ジュニアかなざわ検定実施報告について (生涯学習課)
- その他
- (1) 第27回宮村英語奨励賞について

- ( 2 ) 平成 2 3 年度金沢市管理職教員海外派遣研修「大連市教育研修」の  
実施報告について
- ( 3 ) 「おかえり はやぶさ in 金沢」の開催について
- ( 4 ) 金沢市立図書館読書週間関連催し物について
- ( 5 ) 次回の定例会議の日程について

5 議事の経過等 以下のとおり

佐藤委員長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として柳下委員を指名した。本日の議題について佐藤委員長がすべて公開とするよう発議し、全会一致で公開とすることを決定した。

審議に入り、報告第 1 7 号、報告第 1 8 号、報告第 1 9 号、その他 ( 1 ) ( 2 ) ( 3 ) ( 4 ) について資料に基づき説明があり、質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、1 1 月の定例会議の開催日を次のとおり決定し、閉会した。

\* 1 1 月の定例会議の日程：平成 2 3 年 1 1 月 1 6 日 ( 水 ) 1 3 : 3 0 ~

[ 案件の説明及び諸報告について ]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[ 主な質疑・応答の内容について ]

**報告第 17 号 平成 24 年金沢市立工業高等学校全日制の課程第 1 学年入学者募集要項について ( 市立工業高等学校事務局 )**

( 説明の概要 ) 出願資格者は県内全域の居住者が対象で、来年度募集定員は機械科が 80 名、電気科、電子情報科、建築科、土木科が各 40 名 ( 5 科合計 240 名 ) である。入学願書の受け付けは、平成 24 年 2 月 16 日 ( 木 ) から同月 21 日 ( 火 ) までとなっている。学力検査は 3 月 6 日 ( 火 ) と同月 7 日 ( 水 ) の両日で、1 日目に国語、理科及び外国語 ( 英語 ) 、2 日目に社会、数学、面接を行う。ただし、科目の順番等については今月末に県が発表を予定しており、発表され次第、県に準じて進めていく。合格者発表は 3 月 14 日 ( 水 ) 正午に行う予定である。

推薦入学の募集定員は、第 6 回定例会議でご承認いただいたとおり全募集定員の 25% ( 5 科合計 60 名 ) で、昨年は 30% で 72 名だったので、12 名減である。推薦入学の願書受け付けは、平成 24 年 1 月 31 日 ( 火 ) から同年 2 月 2 日 ( 木 ) までで、面接は 2 月 7 日 ( 火 ) に行う予定である。合格者の内定は 2 月 13 日 ( 月 ) に各中学校長を通じて本人に通知するとともに、3 月 14 日 ( 水 ) に一般入学の合格者とともに発表する。

この募集要項は、6 月に県が発表した平成 24 年度石川県公立高等学校における入学者選抜方針に基づき、出願資格、出願手続き、入学者の選抜方法や日程などを定めたもので、県立高校とほぼ同様である。全日制の公立学校では、学力検査の 2 日目に面接・適性検査から一つ、または両方実施することができることとなっており、本校では面接のみ行う予定だ。

早川委員

推薦入学について伺います。昨年の 30% から 25% に減らした理由は何ですか。

奥村市立工業高校  
事務局長

県の方針に基づいて、今年は 30% から 25% に変えました。

**報告第 18 号 金沢市立工業高等学校と韓国全州工業高等学校との国際交流事業について ( 市立工業高等学校事務局 )**

( 説明の概要 ) 本校生徒 18 名と校長、PTA 会長 ( 合計 23 名 ) が、金沢市の姉妹都市である韓国全州市にある全州工業高等学校を 10 月 30 日 ( 日 ) から 11 月 2 日 ( 水 ) までの日程で訪問し、文

化の違いや暮らしを肌で感じ、言語や文化の壁を越えた交流を通じて世界平和教育について考え、視野を広げる機会とする。訪問校の全州工業高等学校は、全羅北道道立の学校で1916年に開校した。生徒数は1,429名、学科は機械科、電気科、建築科、土木科、自動車科、電算科の6学科である。

10月30日に金沢を出発し、翌31日に全州工業高等学校と日本文化の紹介や学校の情報交換などを行い、その夜はホームステイをする。11月1日も学校で交流を進め、午後にソウルへ移動し、11月2日に金沢に到着する予定である。帰国後は、11月の生徒会だよりに活動報告を記載して生徒全員に配布し、12月には全校生徒を体育館に集めて交流内容を報告する予定である。

岡委員	1年生が女子ばかり3名というのは、何か理由があるのでしょうか。
奥村市立工業高校 事務局長	1年生から3年生まで全員にアンケートをとり、参加したい生徒がこの18名でした。男子がどう、女子がどうということは全然考えておりません。
前川委員	この交流は今回が初めてとのことですが、向こうからこのような交流の話はこれまであったのでしょうか。
奥村市立工業高校 事務局長	これまで韓国との交流はありません。これまでは中国蘇州の工業高等学校と平成元年から平成15年まで相互に交流しています。それから平成19年にニュージーランドと交流しており、それ以後、国際交流は今回が初めてです。今回は金沢市の姉妹都市ということで、金沢市から全州市へ紹介し、この工業高等学校を紹介していただいたということです。
前川委員	そうすると、今回初めて向こうへ行き、これから相互訪問し、そういう交流を今から深めていくスタートになるということですか。
奥村市立工業高校 事務局長	そういうことになるかと思います。来年度以降については今のところ未定です。
早川委員	交流という言葉からしても、一方通行ではなく、こちらから伺えば今度は必ず向こうからも来てくださることを希望します。 二つ質問があります。一つは学生たちの共通言語は何ですか。韓国語なのか、それともコミュニケーションのお手伝いが入るのか。もう一つは、韓国の場所や人の読み方は非常に厳しく、「日本海」すら言えません。国際会議でスピーカーが「日本海」とおっしゃったら、私たち通訳は最初に「東海(トンヘイ、The East Sea)」と言ってから「or The Sea of Japan」と言わなければならないのです。その他、いろいろな制約があります。できればこういう会議の中でも、チョンジュ(全州)と韓国の読み方でお話を進めていった方が問題がないのではないのでしょうか。だからペ・ヨンジュンさんと呼ぶからヨン様であって、日本流に漢字で読むことはないわけです。チェジュアイランド(済州島)であって、日本風に読まないということを企画の段階から生徒たちにぜひ徹底して言ってあげてほしい。個人的な意見ですが、そう希望します。
奥村市立工業高校 事務局長	基本的には英語中心で交流を進める形になるかと思います。交流を進めるに当たり、本校と受け入れていただく学校とで、詳細な形で打ち合わせ等を進めながらやっています。
早川委員	英語でというなら、なおさら、人名・地名は韓国語の発音となります。また、日本と韓国の間には、非常に微妙な感情やことがらがたくさんあるということも、生徒が行く前にお話ししていただければうれしく思います。

佐藤委員長

趣旨の最後に「世界平和教育についても考える」と書いてありますが、そのために双方で何かをやるということをお話し合っておられるのですか。

奥村市立工業高校  
事務局長

今のところそこまで具体的なことはありません。生徒同士が交流することによって、隣国ですから、世界平和についてもお互い少し考えていく交流をしていこうとは聞いておりますが、具体的な動きはまだ聞いていません。

### 報告第 19 号 第 6 回ジュニアかなざわ検定実施報告について（生涯学習課）

（説明の概要）8月24日（水）午前中45分間、小学校53校、中学校9校、個人受検会場2会場（計64会場）で実施した。実施状況については、小中学生・保護者を含めると申込者数3,341名、受検者数3,018名、受検率90.3%となり、昨年度に引き続き受検者数が3,000名を超えている。採点結果については、小学生版の平均点は58.3点、カード取得率は25.9%で、カード取得者数はゴールドカード27名、シルバーカード204名、ブロンズカード386名（計617名）となった。昨年度に比べて平均点とカード取得者数は多くなっているが、ゴールドカードの取得率が半分ほどになっており、これは今回、問題の難易度が高かったためと分析している。また中学生版の平均点は46点、カード取得率は5.2%で、カード取得者数はゴールドカード2名、シルバーカード11名、ブロンズカード20名（計33名）となっている。中学生も平均点は上がっているが、カード取得者数は若干少なくなっている。

10月25日（火）の午後4時から市長応接室で、小学生版では最高得点96点の長坂台小学校6年・川越萌美さんに、中学生版では最高得点92点の城南中学校1年・下出采果さん、及び大徳中学校3年・宇野真佑子さんに最優秀賞の表彰を行った。なお、宇野さんについては2年連続での最優秀賞受賞である。

早川委員

二つ質問します。今回6回目ですが、問題はだんだん難しくなる傾向にあるのでしょうか。どのような組織がこの問題を作るのでしょうか。すごく難しいとかひねってあるというのではなく、みんなが金沢のことを知ろうと受検して、「だんだん分かってきた、うれしいな」と勇気づけられるような検定だとうれしいのですが、あまりにも難しくなっていくのはどうかと思います。私の周りの大人の方で、一生懸命勉強して、検定を受け、メディアの取材も受けてテレビにも出ていらした方が最近では受検していらっしやらないので、「もっと上の級があるはずなのに、なぜ受けないのですか」とお聞きしたら、「問題がものすごく難しくなって、こんなことを知っていてどうなるのだろうと思うようになってきたので、もうやめました」とおっしゃったのです。何のための金沢検定なのかと非常に残念に思いました。そういうことが子どもたちの検定に起きなければいいなと希望します。

縄生涯学習課長

問題作成委員会というものがあまして、屋敷先生をトップに、中学校の先生がお二人、小学校の先生がお二人で問題を作成しています。それぞれ50問ありますが、25問は小中共通の問題、残りの25問は小学生版と中学生版というように作っております。なかなか出題範囲が限られているので問題を作るのも苦労しておられるようです。今回は出題者の先生方の意見を聞きますと、100点満点がたくさん出るのではないかと考えて作られたそうですが、意に反してなかなか難しかったと聞いております。

なお工夫しまして、ジュニアかなざわ博士がたくさん出るようにしてまいりたいと思っております。

佐藤委員長

要するに、平均点がどのくらいのところを狙って出しておられるかとい

う話なのでしょうけれども、受験者の状況にもよるのでなかなか難しいところだろうとは思いますが、早川委員が言われたこともやはり非常に大切なことかと思しますので、またご検討いただければと思います。

### その他(1) 第27回宮村英語奨励賞について

(説明の概要) 第27回宮村英語奨励賞授与式を、10月15日(土)午後2時から金沢市文化ホールの大集会室で行った。宮村英語奨励賞は、金沢大学や金沢工業大学などで英語教育に一生をささげられた故宮村一之先生のご家族からのご厚志をもとに、英語能力の優れた生徒を表彰するものである。受賞対象者は、世界都市金沢の次代を担うにふさわしい、英語によるコミュニケーションに興味・関心を有し、英語の能力に優れた中学3年生としている。

1次選考についてはリスニングを含む筆記試験を8月25日(木)に実施し、2次選考はネイティブスピーカーを含む5名の選考委員の先生により、海外滞在経験を考慮した英語の面接試験を9月17日(土)に実施した。今年度の応募者は前年度と同じく164名で、最終的に受賞者は24名となった。内訳は金沢市立中学校から13名、金沢大学附属中学校から7名、県立錦丘中学校から3名、私立中学校から1名である。

(特になし)

### その他(2) 平成23年度金沢市管理職教員海外派遣研修「大連市教育研修」の実施報告について

(説明の概要) 団長を務められた緑小学校の直江校長から報告させていただく。

直江緑小学校長

大連市への管理職研修は昨年度に続き今年が2回目となります。今年は小中学校の管理職4名と金沢市教育委員会2名(計6名)が参加しました。主な目的は、小中一貫英語教育への理解を深め推進を図ることと、学校教育の在り方や教員の資質向上についてです。研修日程は当初4泊5日の予定でしたが、台風の影響で搭乗機が欠航となり、実質3泊4日の研修になりました。

最初の視察校である大連市の第十六中学校について報告いたします。中学校と言いましても、金沢の錦丘中・高等学校と同じような中高一貫校です。大連市の学校ではすべての教室にスクリーンやプロジェクター、パソコンが配置されており、先生は自分で作った教材のデータを入れたUSBを持参してパソコンに入れて授業を行います。

高校2年生の英語の授業は英語だけで行われています。先生は黒板をほとんど使わず、生徒との言葉のやりとりと映像による指導が中心でした。単なる機械的な言語習得だけでなく、内容のあるまとまった英文を読み、そこに書かれていることについての趣旨や意見を求めるかなり高度な学習を行っていました。高校2年生の日本語の授業では、スクリーンに本時の内容やワークシートなど、学習していることをタイムリーに映し出していました。この授業でも先生、生徒ともに日本語しか使いません。内容は日本の中学生でも難易度が高いもので、中学2年生から日本語を始めるのですが、3年間で非常にコミュニケーション能力がついていました。あらためて中国の語学の指導について驚かされたという感じです。

授業の後の休み時間には目の体操が行われています。後ほど紹介する実験小学校でも同様の体操が行われており、小学校から高校まで一貫した指導方針が根付いていると分かります。目の体操の後には業間体育が行われ、大連市では、小学校から高等学校までのすべての学校で行われているそうです。活動が終わると指導教員の指示できちんと整列し、整然と校舎へ戻ります。小学校から行われている業間体育での集団行動は、ある意味今の日本の教育から失われつつある大切なもののようにも思いました。

視察初日の午後は大連大学に行ってきました。大連大学の学長の話によると、大連大学はここ数年で大きくレベルが上がリ、今や中国でも有数の総合大学になったそうですが、その大きな理由の一つが、優秀な教員を集め高度な授業を行ってきたからだそうです。日本の大学との交流も盛んで、大学のレベルアップへの強い意欲を感じました。大学の図書館で私たちが一番驚いたのは、学生たちが至るところで真剣に勉学に励んでいる姿でした。最近では中国でもインターネットに没頭している子どもたちが増えていていると聞いていましたが、この大学ではパソコンよりも書籍とノートに一生懸命取り組んでいる学生がほとんどで、大変印象に残りました。

視察2日目は大連実験小学校に行きました。第十六中学校では教室にスクリーンが常設されていましたが、この学校では電子黒板とパソコンが常設されています。先生の教壇にはパソコンが組み込まれており、ここで操作するわけです。参加した授業は小学校3年生の英語の授業でした。金沢市の英語教育と同じような授業の流れでしたが、先生はもちろん英語しか話さず、電子黒板を非常に効果的に活用していました。教科書は大変よく工夫され、ストーリー性のある漫画仕立てのもので、その表現を使う場面を十分に理解しながら学べるようになっていました。私がこの授業で一番印象に残っているのは、授業の後半で、習った表現を使って児童が考えたことを表現し合っているところでした。思考を大切に、それがきちんと授業の中に盛り込まれていたと思います。

最後に視察した中山区実験学校は小中一貫校で、金沢市の城南中学校との友好校でもあります。中学2年生の中国伝統文化である京劇の授業では、本物の京劇の役者が講師として生徒にけいこをつけ、学ぶ生徒の姿勢もとても真剣でした。この授業は、伝統文化を継承するという学校長の方針で行われている、中山区実験学校の特色ある教育の一つです。金沢市が取り組んでいる持続発展教育や金沢「学びタイム」ともつながる教育活動だと思いました。

大連教育学院では教員の資質向上を目指し、教員は5年間で240時間の研修が義務付けられています。また、優秀な人材を確保するために大学教授級の待遇を教員に保証しようという動きもあるそうです。教育学院が求める資質は、自分らしい新しいものを作る個性、校長として学校をどう特徴あるものにするかという方向性や指導力とのことでした。これらは管理職として大切な資質だと思います。

最後に、今回の研修を通して学んだことを三つご紹介します。一つ目は「教育は人なり」とあらためて感じたことです。中国の小学生から中学生、高校生、大学生までの学ぶ姿には大変感動しました。このような姿は、教員の教育に対する熱い情熱と工夫をこらした指導のたまものだと思います。このような意味で、教員の資質向上が子どもの成長にとって大変大切だと思いました。われわれ管理職は校内OJTを初め、各機関と連携しながら教員の資質向上を図っていくことが大切だと思っています。二つ目は各学校の校長先生や学長の話で感じたことです。トップの考え方で学校の方向が決まるということです。われわれ管理職自身が教育に対する熱い思いを常に持ち、そして高い理念をしっかりと持つよう、今後一層努力しなければならぬと思いました。三つ目は金沢の良さを再認識できたことです。今回訪問した小学校や中学校は、大連市でも大変レベルの高い学校です。都市部を離れると教員のレベルも下がり、教育の低い学校も多くあるとよく聞きます。中国でこの差は大変大きく、大きな問題にもなっているそうですが、金沢市の教育レベルは大変高く、どの学校においても大きな格差はありません。そういう意味で、金沢の教育の良さを実感しました。大連市には4日間いましたが、車も人も多く大変騒々しい中にいると、金沢の歴史や文化を感じる町並みや静かな雰囲気を感じ、金沢はいいなとあらためて思いました。

今回の研修は学ぶことの大変多い有意義なものでした。このような機会

を与えてくださった金沢市教育委員会に厚く感謝し、報告を終わらせていただきます。

米井委員

今のご説明の中で、大連の小学校と中学校は割と特別な位置にある学校だとの話がありましたが、平均から言うとどのくらい上なのか。もう一つは、前にテレビで上海か何かの、実験何とか学校と付いていたところの映像を見たのですが、授業内容ややり方がほとんど同じだったのです。ということは、中国において教育の仕方は日本で言う指導要領などに基づいて行っているか確認されたかどうか、この2点を質問したいと思います。

直江緑小学校長

英語の学習レベルについて言えば、やはり金沢よりもまだまだ上だと思いました。学校のレベルということでは、向こうの方にお聞きしたところ、今ご紹介した大連小学校や十六中学校は、中国レベルの中の上ぐらいというお話でしたが、謙遜もあるでしょう。例えば大連小学校などは結構優秀な先生を呼び集めるそうです。すると、お金を持っている裕福な家庭はその学校で学ばせようと、そういう生徒がその地域に集まってくるのです。そうするとその地域のレベルが上がり、またそこに人が移動してくるという感じです。

それからもう一つ、教育の基準についてはそこまで詳しいものを見せていただけませんでしたし、はっきりとしたものは聞けませんでした。ただ英語の学習については、ある意味、大連市へ金沢から行っていますよね。そういうことで金沢市が大連市に非常に近づいていると思いました。

米井委員

基本的な部分で何か違うのだろうかということが明らかになっているのかどうかということ。

それと、みんな教室の中で英語でしか話さないの、絵面を見るとすごいという話でした。これが小学校1~2年生くらいまでならまだかわいいものですが、今回は高校を見られたという話でしたから、多分かなり差が付いている感じがします。聞いたかったことは、この根底にあるのは国の中の教育の考え方の違いなのか、学校としての工夫で済む話なのかということです。国の方針の大本で違うのであれば、学校単位でできることは結構限られてくると思います。今、金沢の子どもたちは随分近づいてきたと話にありましたが、やはりこれだけ毎年行っているのであれば、具体的な違いを明らかにしたうえでアクションを取るべき課題は何かということをその年度、年度で出していけないと、「中国はすごいのですよ」という中国品評会になってしまうのです。本当のところをなかなか見せないの、こちらからそういった強い課題を持って見てきてもらいたいというのが、今の僕の質問の趣旨です。意見として申し述べさせていただきます。

直江緑小学校長

おっしゃるとおり、特にあのようなレベルの高いところの子どもたちについては、学校で学ぼうという意欲がまず根本的に違っています。私たちもいろいろなレベルの子どもを見たかったのですが、やはり中国はいいところしか見せてもらえません。ですので、あそこに集まっている子どもたちは、家庭も子どもも学ぶことに対してはどん欲な姿勢で取り組んでいることは間違いないと思います。

英語に関しては、やはり中国の環境でしょうか。例えばアルファベットでは、いわゆる1年生の片仮名と同じように、中国語の読み方に使うので、子どもたちはアルファベットに非常に慣れてしています。日本の英語教育との違いの一つは、環境的に英語をどうしてもという子どもたちの意欲が違います。あとは、本当に勉強しないと職業に就けないという、昔の日本のようなところがあります。

米井委員

中の上だけでも、多分数えただけで日本の子どもの何倍もいます。だが

ら中国を見るとときには下を見てはいけないのです。あの子どもたちは、いわゆる今の日本の子どもたちと大人になってから一緒に仕事をする方々なのです。それを思うと中国の子どもの1割はそうだと思った方がいいですから、その辺にかなり差を感じるとしたら、結構真剣に受け止めるべきことだと思います。

ただ、日本の教育の中で優れていることも彼らに伝えなければいけないと思います。今の金沢の子どもたちを見ていても思うのですが、やはり心の教育といえますか、まっとうな考え方をするにはどうするかということが大切だと思います。僕は部分的にしか見ていませんから正解とは言えないのですが、中国の子どもたちはかなり勉強の意欲が強く、前回行ったときは朝から晩まで勉強していましたし、放課後には塾や習い事をしているのですが、遊ぶ時間というものを実験小中学校の子どもたちにはあまりないのです。そういったところの差は何かということ、こちらから提案していてもいいのではないかと気はします。多分中国は、人間性を育成させるという意味で、その辺が足りないのではないかと気が付いているのではないのでしょうか。もう、日本と中国を比べて中国のレベルが素晴らしいなどと言っている段階ではないでしょう。交流ならば、日本の子どもたちを教えるやり方も素晴らしいところがあるので、そういったものを持った上で交流していってもらった方がいいという気がします。

直江緑小学校長

もう少しだけ言わせていただけますか。十六中学校の校長いわく、その校長は金沢に来ているそうです。ですから質問をすると、「これはみんな金沢で学んできたことなのだ」とお話しされていました。

早川委員

二つ質問させてください。今回大連市で日本語の授業風景をご覧になったと聞いて、すごくいいと思いました。中国で英語がどのように教えられているのか、中国で日本語はどのように教えられているのか。どちらも彼らにとって外国語ですね。私たちが英語を学んだり、韓国語を学んだり、また中国語を学んだりするときのとても良いヒントになっていくのではないかと思います。何か違いがあったのか。日本語は漢字を使う視覚的な言語ですね。英語は音のするメロディックな言語ですよね。漢字を使い、また母音がたくさんある特徴の中国語を母国語とする彼らが上手に教え方を変えているのか、それとも同じなのか、聞きたいです。

もう一つの質問は、大連方式と呼ばれている何かがあると、とある先生からお聞きしたことがあります。いろいろなところにそれを広めたいと思っても、英語の先生方の抵抗にあってしまい、うまくいかなかったそうです。それで、せっかく市のお金を使って勉強に行ったのだけれども、どうもうまく生かせず、実は東京に就職口を求めて引っ越してしまわれました。せっかく学んできたことがなぜ浸透しにくいのか、これからの予定として子どもたちや先生方のために、大連での経験をどう生かすつもりか聞かせてください。

直江緑小学校長

まず、日本語の勉強については1時間の授業しか見せていただけなかったので詳しいことは分かりませんが、中学校2年生から日本語教育が始まり、3年間で先生と生徒は日本語でしか話さなくなるのです。ただ授業を見てみると、子どもたちは非常に勉強しており、先生も日本語が堪能なのですが、問題があるとすれば答えがこれしかないということです。「おばさん」の意味について文章を読むのですが、「それについては答えはこうですよ」と先生が説明して終わってしまっていたので、あの授業だけでどこまで本当に分かっているのか。下積みのいろいろなところで十分に聞き取りをしたり、あるいは自分で調べてきたりということを、多分子どもたちがやっているのだろうと思います。だから、私は中学校2年生からのスタートの日本語の勉強の仕方はどうなのかなと、ちょっとそこまで聞けなかつ



たのですが、ただ日本語について、子どもの姿はすごかったのです。それだけは「なぜ」と言われると非常に難しいのですが。

野村学校指導課長

早川委員からの質問に少し付け加えてお話しさせていただきます。まず、今回の訪問団の中には、中学校で英語科を担当されている教頭先生も一緒に参加していただいています。その先生は、今、金沢市が策定を進めている小中一貫英語教育の新カリキュラムの中学校のワーキンググループの代表をしていただいている方です。指導法にかかわっては、金沢市がさらに充実させていきたいと考えているカリキュラムの中にも生かせるところはなかったのかどうかという視点で、またカリキュラムを見ていただけたらと思います。

今回の研修目的の中には、英語教育だけでなく、教員研修の在り方や、どうしたらあのような形で英語の指導力が高まるのかという点も見てきていただいています。そのためにも、教育プラザ富樫の指導主事にも今回の訪問に参加していただいていますので、プラザの今後の研修の在り方の中にもぜひ生かしていきたいと思います。もう1点、研修の目的では学校経営の在り方ということで、管理職としての学校づくりはどのような点を大事にすればよいかということをお勉強していただいているので、それについては校長会や教頭会の折に学んできたことを広めていきたいと考えています。

### その他(3) 「おかえり はやぶさ in 金沢」の開催について

(説明の概要) 昨年6月に地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」のカプセル本体等が、11月4日から11月6日の3日間、キゴ山天体観察センターで、JAXAの特別協力をいただき展示される。展示物は実物の帰還カプセル本体部分、搭載電子機器、パラシュート、探査機の8分の1スケールモデルなどで、石川県では初めての開催である。これに併せて記念講演やプラネタリウム上映会などを実施したいと考えている。

4日の午前中はオープニングセレモニーと申し込みのあった五つの小学校の特別公開とし、当日午後1時から一般公開を考えている。また、5日と6日は一般公開のほかにプラネタリウムで「はやぶさ」の番組を上映するとともに、5日は午後1時から北鳴中学校吹奏楽部による星にちなんだ曲の演奏会、午後2時から「はやぶさ」プロジェクトマネージャー・川口淳一郎氏による記念講演を予定している。なお、川口教授については今月19日の金沢市民大学講座にも講師として来ていただいたが、今回は子どもたちを対象に別の視点からお話ししていただく予定になっている。委員の皆さまにも、もしお時間があればご出席をお願いしたい。

佐藤委員長

開催場所がキゴ山ということで少し中心部から離れていて、足がないと行きづらい感じもします。いろいろ考えられた結果だろうとは思いますが、一般市民の方もかなり関心を持たれる内容ですので、もう少し足の運びやすいところで開かれてもよかったのかなという気がしないでもないですが、ぜひ多くの方に参加していただいて、日本の宇宙技術の素晴らしさを見ていただければと思います。

### その他(4) 金沢市立図書館読書週間関連催し物について

(説明の概要) 10月27日から11月9日の2週間は読書週間である。昭和22年に第1回が行われ、今年は65回目の読書週間となり、標語は「信じよう、本の力」である。金沢市立図書館4館ではそれぞれイベント事業を予定している。なお、市民に周知するためいろいろな機会を通してPRしてきており、24日の新聞広告においても4館で一斉にPRを実施した。

(特になし)

以 上

会 議 録 署 名

教育委員長 \_\_\_\_\_ 署 名 \_\_\_\_\_

教育委員 \_\_\_\_\_ 署 名 \_\_\_\_\_

( 柳下委員 )